

節分体験 (豆まき)

節分に豆をまくのはどうしてでしょうか。日本では、季節の変わり目に邪気が生まれると考えられていました。(邪気とは、病気などを起こす悪い気「鬼」のこと)

節分の豆まきは、中国から伝わってきた風習で、平安時代頃から、鬼を追い払う儀式として行われたそうです。江戸時代には豆まきとして庶民にも広がり、豆まきをして鬼を追い払う行事となりました。「豆をまいて、魔(ま)を滅(めっ)する」と言われています。

今回は、小学部の1, 2年生が豆まき体験をしました。豆には悪さをする鬼をやっつける力があると信じられていましたから「鬼は外」といって豆をまき、良いことが来ますようにと願いを込めて「福は内」といって豆をまきます。豆をまくことで、皆さんの心の中にある怠け鬼やわがまま鬼、いじわる鬼を追い払いましょう。

児童は元気よく声を出して、鬼めがけて豆を投げていました。きっと今年も元気な体で、しっかりと勉強することができるでしょう。今回使用した豆は、発泡スチロールできており、鬼のお腹についている箱の中に入った豆の個数で得点を競いました。

学 年	1 年			2 年		
組	1 組	2 組	3 組	1 組	2 組	3 組
個 数	5 6	5 1	5 5	5 2	5 6	6 2
結 果	準優勝			準優勝		優 勝



子どものほめ方・認め方・叱り方（職員研修より）

1. ほめる時、叱るときの基準は

子どもたちに、どんな時にほめられるのか、叱られるのかという基準をはっきり示しておく必要があります。その基準を知ることによって子どもは安心して学校や家庭生活を送れることとなります。その基準が明確でない（いつどんな時に怒られるのかがはっきりしていない）と、子どもたちは委縮してしまったり、びくびくして大人の顔色を窺ったりするようになります。学校では、子どもたちに「友だちを傷つけた時（体・心）、約束を破った時には叱ります。」という話をします。子どもとの信頼関係を基本に、一人ひとりを理解しながらほめたり叱ったりすることで認めていきましょう。家庭でも宜しくお願いいたします。



2. 幅広い観点からほめて認める

子どもをほめる時、例えば学力や体力面だけで子どもを見るのではなく、人に対する優しさや個人内で努力したことなど、幅広い観点からほめることを心がけましょう。また、その場しのぎの「ほめ言葉」（後につながらないほめ方）ではなく、心のこもったタイムリーな「ほめ言葉」が子どもの心に響きます。次からもやる気の起こるようなほめ方をして認めるようにしましょう。

3. 心に迫る叱り方

子どもを叱るときには、愛情から心に迫る叱り方、その子のために本当に「叱る」という視点が大切です。人格を否定するのではなく、行為を叱っていることを子どもに理解させることも大切です。どうしなければならなかったのかを考えさせ、子ども自身が納得できるように指導することが最大のポイントです。もちろん体罰は絶対に許される行為ではありません。また、感情任せに怒ることは子どもの納得に結びつきませんし、決めつけやレッテル貼りは禁物です。指導の上で子どもに求めなければならない要求がある場合は、毅然としてわかりやすく伝えましょう。

※こんな叱り方はやめましょう！（保護者は第2の担任です）

- × また（やっぱり）〇〇さんかー。（偏見）
- × こんなことをするのはどうせ〇〇だろう！（決めつけ）
- × そんなことをする人はダメな人です。将来ロクな人間になりませんよ…。（将来否定）
- × あ～あ、どうするの、これ。先生（私）知らないよ…。（責任放棄）
- × 理由も聞かずに怒る。（強制）
- × 前年度の子どもたち（兄弟姉妹）は出来ていたのに…。（比較）
- × 〇年生のくせに、そんなことも分からない（できない）のか！（成長否定）



